



在京古高同窓会会報 第30号

〒113-0034 東京都文京区湯島3-20-9-707 佐藤清勝税理士事務所内 在京古高同窓会事務局 (03) 5818- FAX (03) 5818-2677 発行責任: 春田 紘輔 編集長: 亀井 明 印刷: (株)ケーヨー

新年を迎えご挨拶

魅力ある同窓会づくりを

会長 三浦 澄能



明けまして

おめでとうございます

皆さんにはご家族ともどもお元気に新年を迎えられ誠に慶賀に存じます。

新世紀も三年目を迎えました。日本の経済情勢はいまなお厳しきから抜け出せないまま、先行き不透明な中で仕事や生活に対応して行かなければならないようです。

さて私は、昨年夏の同窓会総会で皆さんのご推挙により、前会長の高橋淳夫さんからバトンタッチを受け就任いたしました。皆さんのご鞭撻ご支援を頂いて、伝統ある在京同窓会の更なる発展のために努めたいと存じます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

そこで、年頭に当たり私の所感

を述べてみます。

第一には、「会員の増強」を図ることです。役員団の努力にもかかわらず、嘗ては千人近い会費納入会員も、この十年ほどの間に遂に三百人を下回るといふ現状になっております。首都圏には二千人を超える同窓卒業生がいるにもかかわらず、こうした減少傾向は同窓会の存立にとって大変心配な問題であります。

原因・理由はいろいろあるでしょう。ともかく皆さんと一緒に「魅力ある同窓会」づくりを目指して、会員の増強を緊急の課題として取り組んでまいります。

そして、財政的に余裕ができれば、皆さんがいつでも立ち寄れる事務局専用室を持つ夢にもつながります。

第二には、「同窓会のチャンネルを大きくする」ことであります。同窓会づくりには諸先輩が尽力されてきた実績に甘えることなく、時代に即した発想や方法を取り入れながら、同窓生相互の交流や母校との対話などをネットワーク化して行く必要があるのではないのでしょうか。

それに最近では予想以上にメールアドレスを持つ人が増えております。インターネットを利用すれば同窓会の会合に出られない人たちとの間でも広く対話や情報交換が可能になります。

在京同窓会メモ

- ・会計年度は6-5月、年会費は2,000円です。会の健全運営のため、同封の振替用紙での納入をお願い致します。
・次回会報第31号は2003年7月1日発行予定、原稿は常時受付。

また、母校のホームページ上に投稿できる「広場」があれば、卒業生や同窓会とのやりとりが活発化し、ひいては現役生徒への大きなインパクトにもなると考えます。

皆さんでアイデアを出し、協力し合えばもっと魅力ある活動が生まれるでしょう。

第三の提案は、古高卒業生にとって共通の「夢とロマンを語るプロジェクト」を持つというものです。

たとえば、仕事の定年を迎えた会員を中心に自由な時間の一部を提供し合って、中国大陸の砂漠の一角に緑化のための苗木植樹ボランティアを始めるテーマ。将来は「古高OB堂雪林」として古高魂を掲げて若い卒業生や現役生徒も自主的に参加するように思えば・・・、なんて楽しい夢とは思いませんか。

以上の提案は簡単には実現しないかも知れません。しかし、組織の充実発展には常に新たな目標を持つことが大事だと思います。皆さんから率直なご意見とご協力をお願いするものです。

今年も、皆さんのご多幸を心から祈念しご挨拶いたします。

(小生宛に)発信は: FAX 03-3330318067 または Eメール ghal1634@nifty.com

年の挨拶

古川高等学校長 一宮 景喜



新年おめでとうございます。

在京同窓会の皆様のますますのご活躍とご健康をお祈りしております。今年も、本校の発展のために、大きな希望を掲げて進んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

本校が最初の卒業生を送り出したのは明治三十五年(1902年)のことでしたが、この三月にも二百八十名が新たに本校を卒業し、皆様の仲間に加わる予定です。旧制時代から通算しますと、実に百三回生となり、卒業生の数はまもなく二万三千人に達しようとしております。

百年以上も、有為の若者を世に送り出し、また、大きな影響を生徒たちに与えてきたことを思うと、今さらながら本校の持つ役割の大きさと責任の重さに心が引き締まります。

先日、本校の図書室の書庫で、本校が創立間もないころに購入した洋書を数十冊発見しました。半数は理数系のもので、残りは語学、文学、歴史などです。細かい書き込みがあるものも見られ、草創期の教育事情を知ると同時に、欧米の新しい知識を貪欲に自分のもの

にしようとする当時の教師と生徒の強い意気込みを感じました。

ここに常に社会のリーダー養成を大きな役目としてきた本校の学問尊重の精神を改めて感じます。学校の持つ歴史や伝統は現役の生徒を励ます大きな力であり、大きな教育力であると考えておりますので、本校の生徒には、この精神を語り続けていきたいと考えております。

おかげさまで、昨年三月の進路状況は国公立大の現役合格三十一名を初めとして、回復基調にあります。

現在、三年生は目前の大学受験を目指して頑張っており、教職員も熱心に指導にあたっております。今春も、同窓生の皆様に喜んでいただけるような好成績を残したいと切に願っております。

勉強以外にも、在校生は部活動、生徒会行事などで期待に応える活躍をしております。運動部の県大会優勝は陸上の一項目にとどまりましたが、高知県の県代表にはソフトボールチームに五名が選ばれ、陸上にも一名が出場しました。文化部も熱心な活動を続けており、古高生は文武両道を掲げて、昔と変わらずに意気盛んです。

今、社会は教育を含めて、さまざまな改革が求められる時代となりました。本校もまた変化を恐れず、しかし、本校が昔から目標としてきたものを、しっかりと掲げて進む時にあると思っております。

同窓生の皆様には、今後とも母校の新たな発展にご理解とご協力をお願いして、新年のご挨拶いたします。

本部同窓会だより

新年の挨拶



古高同窓会会長

野村 喜太郎

在京古高同窓会の皆様、
明けまして
おめでとうございます。

高橋淳夫前会長さんには伊藤宗一郎大先輩より引継ぎ、会の運営にご努力され有難うございました。役員改選で三浦澄能さんが会長に就任、更なる発展に期待申し上げます。

貴会報に掲載された副会長春田紋輔さんの同窓会活動の一考察の記事に感銘を受け「同窓会はふるさと牧場的役割と、又エネルギーを分ける人の役を」と自分もそうありたい刺戟を受け、新年を迎えました。これも同窓会のおかげです。

百周年記念事業で完成した文化部活動センター「凌雪」の活動目覚しく生徒の意欲的な部活動で音楽、演劇でその成果をあげて居り頼もしい限りです。

財団法人古川高校育英会（理事長は学校長）の苦しい運営に就き

ましては総会の席上や会報で小生報告して参りましたが、この度九古会よりご寄付ありましたので報告しておきます。高九回卒同期会九古会（会長佐々木謙次古川市長）は育英会の基金運営に役立ててくださいと去る十一月十一日現金20万円を寄付されました。

当日、平野健、六戸睦夫、佐野忠会員等が会を代表し小生同席の中、二宮校長へ手渡されました。

旧中五回卒の亀谷徳兵衛氏は東大法科卒後経済界で活躍、昭和五十二年に1500万円を古高に寄付、財団法人育英会を設立、年間の利息で十人前後の生徒に奨学金が与えられていたが、本年度は一人だけとなりました。亀谷氏以外から育英会へ資金提供されましたのは、初めてのことであり、母校生徒にとりましてはよい刺戟となり、有り難いことですので報告いたしておきます。

同窓会独自の事業として毎年度予算で各学年一名ずつに奨学金を贈っており、卒業時には東京堂雪賞が贈られ生徒を激励していただいております。エネルギーを後輩に、ふるさと牧場的役割を果たせる様在京同窓会のご発展を期待し新年の挨拶と致します。



本部同窓会事務局だより

総会及び近況報告



事務局長 清野 千秋

東北地方は十一月に積雪を観測するなど例年になく季節が早足で経過しております。会員の皆様には、お変わりなくご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて本年度も八月十五日同窓会総会が古川市内で開催されました。在京同窓会の三浦会長・事務局の亀井さんはじめとして多数のご出席をいただきました事深く感謝申し上げます。おかげさまで昨年を大幅に上回る一八〇余名の参加となりました。このことは特に本年度の当番幹事である高九回の先輩のご尽力によるものでした。

議事に先立ち、秋及び春の叙勲者四名に記念品と表彰状をお渡ししました。教育会、財界、防衛関係と古高人材の多彩さを再認識したいです。

議事は事業報告及び計画、決算及び予算さらに本年度役員が全員の協力で承認されました。恒例の記念講演は、高九回卒の医師・石

崎允氏から「食生活と腎臓」の講話をいただきました。

先生は全国初の脳死腎移植をなされ、新型カテーテルの開発に携わると腎医療のバイオニアであります。講話の内容は、一つ一つが我々会員の日常に貴重なアドバイスを与えるもので有意義なものでした。

総会後の懇親会も盛会の内に終了しました。今年はOBの鈴木さんをリーダーとしたバンド演奏が会に一段と華を添えてました。

さて本校の進路近況ですが、学力受験の前の推薦選考で以下のように入先の良いスタートをきっております。

国公立四名（東北大二、私立十六名（東北薬科二、東北学院五）さらに公務員三名です。古高教員集団も何とか生徒の進路希望達成（進学率向上）させようと、共通理解を持って日々努力しております。今後とも本校生徒及び同窓会に對しまして、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本校同窓会総会出席者集合写真



平成13年度 決算報告

平成13年度 活動報告

平成13年6月1日～平成14年5月31日

<収入の部>

自 平成13年 6月 1日
至 平成14年 5月31日

科目	決算額(円)	予算額(円)	増減△	備考
年会費	773,000	1,000,000	△ 227,000	2千円以上 315名
広告料	186,000	300,000	△ 114,000	企業・個人広告
寄付・祝儀金	272,000	150,000	122,000	47卒小嶋氏20万
雑収入	283,204	102,000	181,204	各種会の受入金・利息
収入計	1,514,204	1,552,000	△ 37,796	
前期繰越金	2,063,695	2,063,695	0	
合計	3,577,899	3,615,695	△ 37,796	

<支出の部>

科目	決算額(円)	予算額(円)	増減△	備考
会議費	27,435	50,000	△ 22,565	役員会、会場使用料
印刷費	521,829	500,000	21,829	会報2回・案内ほか
事務用品費	12,610	30,000	△ 17,390	コピー・文具代
事務所経費	30,000	35,000	△ 5,000	年間契約料ほか
通信費	292,310	300,000	△ 7,690	電話・切手・はがき
慶弔費	131,972	180,000	△ 48,028	東京賞雪賞・祝儀・香典
組織強化費	50,370	202,000	△ 151,630	若年者対策費
旅費交通費	115,710	150,000	△ 34,290	本部・在仙総会・卒業式
雑費	0	5,000	△ 5,000	
支出計	1,182,236	1,452,000	△ 269,764	
次期繰越金	2,395,663	2,163,695	231,968	
合計	3,577,899	3,615,695	△ 37,796	

次期繰越金内訳
現金 郵便局 2,087,860円
現金 東京三菱銀行 120,330円
現金 187,473円
計 2,395,663円

会計監査の結果、以上の報告書の通り 間違いありませんでした。

平成14年7月17日

監事 青沼 康 男

監事 佐藤 清 勝



年月日	活動内容	場所
平成13年		
6月25日(土)	名誉会長伊藤宗一郎勲一等旭日桐花大綬章受賞 四校役員有志祝賀会(約60名)	東京駅八重洲 ルビーホール
7月7日(土)	会報蛭雪27号と総会案内発送	信陵会館
8月5日(日)	総会・懇親会 (伊藤名誉会長欠席で代理子息伊藤進太郎氏出席) 講演「21世紀はどんな時代になるのか」 講師 前田 浩五郎氏 (S20年卒) 出席者 69名	神楽坂エミール
8月11日(土)	同窓会本部総会出席(高橋会長)	古川市グランド平成
9月5日(木)	伊藤宗一郎名誉会長葬儀 高橋会長、横山副会長、曾根副会長、菅事務局出席	青山葬場
9月17日(月)	伊藤宗一郎氏を偲ぶ会 在京同窓会から会長以下多数出席	帝国ホテル
12月22日(土)	会報28号と古川市内四校合同新年会案内発送	信陵会館
平成14年		
1月20日(日)	「第9回古川市内四校合同新年の集い」開催(幹事校古川商業高) (古高から69名・古女72名・古工40名・古商32名) 来賓22名 合計235名	上野精養軒
1月27日(日)	在仙古高同窓会出席(横山副会長)	仙台市東急ホテル
3月1日(金)	古高卒業式並びに「東京賞雪賞」表彰式出席(曾根副会長) 卒業生 263名 受章者 2名	古川市・古川高校
◎役員会：信陵会館 第1回 H.13. 7.17 (火) 14名(総会資料準備) (関係役員会) H.13. 9. 1 (土) 若干名(本部総会経過等) 第2回 H.13.11.22 (木) 13名(四校新年会等) 第3回 H.14. 3.30 (土) 19名(会費の減少対策他定例事案)		
◎古川市内四校打合わせ： 伊藤宗一郎氏受賞祝賀会、新年の集い計画等で6月から14年1月月末まで5回打合わせ。 場所は、信陵会館、東京文化会館、上野丸谷ホテル、上野精養軒等。 古高からは、春田、曾根、菅、岩崎、六戸、千坂、亀井が出席。		

平成14年度 予算

平成14年度 活動計画

平成14年6月1日～平成15年5月31日

<収入の部>

自 平成14年 6月 1日
至 平成15年 5月31日

科目	予算額(円)	前年実績(円)	増減△	備考
年会費	800,000	773,000	27,000	400円@2,000
広告料	200,000	186,000	14,000	10,000×20口
寄付・祝儀金	300,000	272,000	28,000	個人寄付等
雑収入	200,000	283,204	△ 83,204	総会、四校会、剰余金受入等
収入計	1,500,000	1,514,204	△ 14,204	
前期繰越金	2,395,663	2,063,695	331,968	
合計	3,895,663	3,577,899	317,764	

<支出の部>

科目	予算額(円)	前年実績(円)	増減△	備考
会議費	50,000	27,435	22,565	役員会等
印刷費	530,000	521,829	8,171	会報・案内
事務用品費	30,000	12,610	17,390	コピー代・文具
事務所経費	30,000	30,000	0	信陵会館借用料
通信費	300,000	292,310	7,690	電話・切手・はがき
慶弔費	100,000	131,972	△ 31,972	東京賞雪賞・祝儀・香典
組織強化費	150,000	50,370	99,630	会員増加対策
旅費交通費	120,000	115,710	4,290	本部総会・卒業式
雑費	10,000	0	10,000	
支出計	1,320,000	1,182,236	137,764	
次期繰越金	2,575,663	2,395,663	180,000	
合計	3,895,663	3,577,899	317,764	

(注) 若年者対策費については、引続き計上した。

年月日	活動内容	場所
平成14年		
6月30日(日)	会報蛭雪29号と総会案内発送	信陵会館
7月28日(日)	総会・講演会・懇親会 講師 阿部 雄一郎氏 (S22年卒) 「伊達政宗と岩出山及び 古川祇園八坂神社の天井画について」	神楽坂エミール
8月11日(日)	同窓会本部総会(会長出席予定)	古川市グランド平成
12月28日(土)	会報蛭雪30号及び四校合同新年の集い案内発送	信陵会館
平成15年		
1月初旬	本部同窓会新年会(出席未定)	古川市内
1月中旬	在仙古高同窓会(出席予定)	仙台市
1月19日(日)	「第10回古川市内四校合同新年の集い」開催 (幹事校 古川高校)	上野精養軒
3月初旬	古高卒業式並びに「東京賞雪賞」表彰式(出席)	古川市・古川高校
◎役員会： 定例は年間3回、その他必要事案により関係役員会を開催 第1回定例7月11日開催：総会運営		
◎四校関係： 新年会(H15.1.19)の幹事校として9月から3回～4回程度 開催する。出席者は、春田、曾根、岩崎、亀井その他。		
◎その他： 軽いハイキングか歴史探訪の会を企画予定		

会員による自由投稿

私の卓球人生(その2)

26年卒 一角田 啓輔



1.(1)古川高校時代

昭和二十三年四月、旧制中学で卒業した者を除き、新制中学から新たに入ってきた者、旧制中学からそのまま延長された者を併せて、新制高校一年生となる。

この年は古川高校卓球部の最強の年ではなかったかと思う。通常のレギュラーメンバーに加え、千葉斎(現姓 小野)、古田信也(三年)、山本善次郎(二年)、押元作樹、今野芳郎、片平茂夫(一年)、石田利之助、小松昭、今野拓也(中学三年)等、県下でもハイレベルの選手が揃っており、県大会に古川高からAチームとBチームの二チームが出場して、共に勝ち進みAとBが決勝戦であいまみえる」と云う前代未聞の快挙を成し遂げた。

決勝戦はBチームが棄権したので、Aチームが優勝し、山形県鶴岡市で開催の東北高校選手権大会の宮城県代表となった。東北大会

での古川高は、一回戦(順調に勝ち進み、準決勝戦で前年度優勝の青森県代表弘前高校と対戦、大接戦の末三対二で勝つ事が出来た。続く決勝戦は地元山形県の鶴岡商業高校と対戦二点先取後、挽回されて二対二となり、ラスト片瀬さん渾身の力を振り絞って快勝、ここに古川高校初の東北ナンバードンの座を勝ち得た。

これまでの戦跡を振り返って見ると、期せずして古川高のオーダーは、一番今野、二番角田、三番今野・清水組ダブルス、四番清水、五番片瀬の布陣であり、対戦相手の顔ぶれを見ながら順番の変更が自由に変えられるのに、一貫してこの布陣を変更しなかった頑固さ、自信に満ちた信念と云う様なものが感じ取られ、まさに横綱相撲とはこの様なものであろうかと最下級生のペイペイながら思ったことがある。

東北大会で優勝を果たした我々は、全国大会に向けて猛練習にはげんだ。全国大会は東京皇居内の「斎宮館」で行われた。当時の皇居内の空き地は、ほとんどが茄子や大豆、かぼちゃ、とうもろこし等々の畑になっており、これが天皇が住まわれている皇居なのかと内心びっくりした。

昨年全国第三位だった古川高は、本大会は当然第三シードに組入れられていて、一回戦の相手は四国愛媛県代表の愛媛高校だった。この愛媛高校が曲者だった。打ち合っただけで、断然我がほうが有利なのだが、悉く彼等のフィンガースピンサーブ(ボールを指の間にはさ

み、指先で弾いてボールに物凄い回転を与えるサーブ)でやられた。このサーブの出し方は当時四国と九州の一部で用いられていた様だが、我々は初めて出会った。打とうとするとボールが止まってしまふ、やむを得ず前進して構えるとう度は左右に曲がる。終始サーブに翻弄され、第三シードの古川高初戦にて〇対三のストレートで敗退する結果となった。

試合終了後も何故あのようなサーブが出るのか判らなく、東北の片田舎の情報不足を痛切に知らしめられた一件だった。しかし、其の後間もなく「この種のサーブは邪道である」と判定され即時禁止となり、現在のオープンハンドサーブ(ボールを握らず手のひらにボールを乗せて上方に上げる)にルール改正がなされた。

この年の第三回国民体育大会は九州の福岡で開催された。昨年参加資格がなかったため、今年はないとしても出たかった。幸いにも予選無事通過して宮城県代表となる。この時の代表メンバーは私、他、仙台商業一、宮城県工一、古川工一の四名だった。福岡までの国体列車の旅は大変なものだった。シートは三人掛け、通路は足の踏み場もなく、相撲の連中はマワシを網棚と反対側の網棚に張り、ハンモック代わりにしていた。私は洗面所の台に乗ったまま身動きできず、停車するたびにホームに出て手足を伸ばしながらの道中だった。

試合の方は、快調に決勝戦まで勝ち進んだ。決勝戦の相手は広島

ある。結果は二対三で敗れ準優勝だった。しかし、チームとして優勝は逃したものの、私に對して一年生でありながら、一回戦から決勝戦まで終始一番に出て全勝したと云う事は見事である」と云う事で、大会初の「敢闘賞」を頂戴した。

(2)三年五組の仲間

私は高校の後半二年間は五組に席があった。五組は他の組と比較して割合運動部に所属している者が多かった。特に卓球部員は同じクラスに九名もいた。当時のクラス四十一名だったので、実に22%である。彼等には私の卓球選手として活動する時、色々な意味でバツクアップしてもらった。大会が近づくと、決して良い事ではないが授業をエスケープして練習した事も度々あったし、先生方も見て見ぬふりをしてもらった時もあった。

当時の五組担任の先生は晩年、県の教育長から図書館長を歴任された大場恒一先生で、先生が初めて教師として教鞭を採った時の最初のクラスでもあった。このクラスの仲間意識は高く、今でも毎年「三一五会」と称して仙台と古川で交互に幹事をやり、懇親会を開催している。出席率はきわめて高く、同期会には出てこないが、「三一五会」には出席すると云う輩が何人か居る。

高校最後の年の東北大会で、私が負けたため、三対一で優勝出来るところを、二対三で優勝出来た事が有った。かつて皇居の「斎宮館」でフィンガースピンサーブ

で敗れて以来団体戦で負け知らずで来ただけに、今でもそのシヨックが頭に残っている。この敗戦による経験と反省が、後の私の卓球活動に大きな影響を及ぼした事は事実である。高校卒業後、古川を後に上京して丁稚奉公を始める。(以下次号)

松島観月?のクラス会

26年卒 鈴木 桂吾

今を去る三二三年の元禄二年三月、松尾芭蕉は「松島の月、先ず心にかかりて」と、深川の庵を出立し、門人の河合曾良を連れて「奥の細道」へと旅立ちました。

時移り、平成十四年八月十八日(日)、古高三期生(昭和二十六年卒)三年四組のクラス会が松島の大観荘ホテルで開催されました。「松島の月を眺め、日の出を拝もう」などと、柄にもない風流心を天が怒ったものか、台風十三号の影響で、生憎の曇天に終始しましたが、クラス会の方はまことに盛大で楽しい一日となりました。

会の世話役は、幹事長が古川市源六商店の藤本信義君、幹事に岩出山町の理髪店主恵比寿洋一君、古川市の佐々木正蔵・高橋繁治君などで、各幹事の労を多とします。この他の参加者は仙台市の押元作樹君、小牛田町の石川敏夫・高橋詮君、松山町石雲寺の宮本享一君、河南町の佐沢次郎君、松島町の鶴宮光君、それに船橋市から小生と計十一人でした。

参加申込みの仙台市の永沼昭君・高橋胞司君、田尻町の佐々木昭介君、横浜市の新柵亭君の四君が、所用などでの不参加はまことに残念でした。

宴の始まる前から歓談が尽きず（秘蔵のウイスキーなどをチビチビと）、宴に至って酔いの廻るにつれ、古中・古高六年間の学び舎の思い出話や、先生方・旧友らの消息などと、杯を口に運ぶのを忘れるほどに童心に戻り、皆が夢中となっていました。

また宴酣となるや、諸兄のカラオケの美声に聞きほれたり、隠し芸に抱腹絶倒したりと、参加者全員の熱気に溢れた楽しい一夜となりました。



最後に校歌を斉唱し、再会を約しましたが、この後も皆が一室に集まって午前〇時頃まで談笑（飲みながら）するなど、顔の皺ばかりか、心の皺までも伸びた一日でした。

この頃には、「松島の月」などは皆がとうに失念しており、芭蕉も苦笑する次元の低い風流心を露呈しております。

次回は更に多勢の参加を期待すると共に、クラス全員の健康を祈るや切である。

最後に一句
松島の
月は賞でぬも

四組会

30年卒 古高、古女
合同同期会
30年卒 岩城 光将

タイトルをみて、「ん？」と思われる方もいるでしょう。そうです。第一回目の合同同期会を開催したのです。事の起こりは、古川市内四校新年会で同じテーブルで懇親を深める内に、誰からともなく出てきたアイデアが実現したのです。

夫々の同期会は定期的に開催していましたが、高校は別々でも青春の同じ時期を同じ古川で過ごしたという思いが共感を呼んだのでしよう。残念ながら古工の方は四校新年会に出席者がいなかったため今後接点を求めていきたいと思えます。

十月十九日（土）午後四時、神宮外苑の日本青年館、十四名が

集まり、「人生は豊かに」をテーマとし心の絆を確認しあいました。古川、仙台や大阪、愛知からも駆けつけてくれ、盛会のうちに二時間半はあっという間に過ぎ、次回もお互いに元気で再会する事を約束しました。

皆様も心豊かであることをお祈り致します。



女流薙刀伝
(日本一の薙刀使い)
23年卒 佐藤 浩朗



我故郷大崎では幕末に長岡荒谷出生の（大利根月夜）北辰一刀流、流祖千葉周作は周知の事実ですが、もう一人女流で興行剣術の出身の薙刀の名人で最高位範士を究めた女性がおります。私らの子供時代は撃剣と云っていましたが、我校でも戦前から柔剣道は正課で剣道の師範は京都武専出の加藤先生で、記憶にあるのは、竹刀は雑巾を絞るように持てと指導を受けました。

又全国の中学を巡回して最後の剣士で居合術を見学した思い出があります（迫力がありました）。

昭和三十年代読売の連載小説で古川とか川渡の地名が文中に出てた村松梢風の近世名勝負物語が目にとまり、読み出したことがありません。近年もう一度再読したい欲望にかられ、絶版になっていて沼津図書館を通して全国の図書館に手配したところ大映京都企画部印で京都府立図書館から回送され読みました。（シナリオを起こそうとしたが映画が陽の目を見なかつたようです）。

冒頭古川の町へ剣術興行が流れ込んできた場所をつらつら考証しますと、子供時代台町の裏で

東浦の広い空き地（電話局のある場所）がありサーカスとか見世物が仮設してましたからその辺だと思えます。

村松梢風近世名勝負物語女流剣豪伝から大筋を転用します。

主人公は仙台藩士日下湯三郎六百石 廃藩置県により武士を廃業し、池月上の目で農業を始めてその子は幼名を「たりた」といい、明治三年に出生、十二歳の時古川川渡に奉公に出され、当時古川に見世物の剣術大会があり、その中の薙刀に魅了され、十七歳の時一座に入門し、明治大正と苦勞の連続、旅から旅の全国を巡業し、最高位範士になり名を「秀雄（ひでお）」と改め、大正十五年宮内省にて時の摂政宮殿下（後の昭和天皇）臨席のもと、御前試合の榮譽に浴した。その当時一番の油ののりきつた時代でしょう。

昭和になり年も八十歳を越え、東都の女子校の指導とか戦時中宮城県の要請で女子の士気を鼓舞するため講習会を開催（運動会などで女子が型をやっていたことが思い出されますが、昭和十七年頃です）から当時を知る人が現存していることと推察します。仙台、石巻、涌谷、田尻、富永、最後は生まれ故郷池月に錦を飾った。

国敗れて山河あり

城春にして草木深し

少女時代に父兄が下野する時連れてきた駿馬二頭があり、見果てぬ夢は奥羽山脈に抱かれた加美富士薬来のふもと、当時のどかな馬産地池月から小野田宮崎の平原を駆け抜けたことを思いつつ、二度と故郷に帰ることなく人生の終焉を迎えたことでしょう。

森谷建設株式会社

代表取締役 森谷 侑一
昭和20年卒

〒336-0923 埼玉県さいたま市大字大間木2395
TEL 048-874-2610

税理士 青沼康男 不動産鑑定士

(昭和19年卒)

〒108 東京都港区芝4-6-16 ライオンズ三田805
-0014 TEL 03-3452-2004
FAX 03-5476-8006

ケーヨーは情報化時代の未来を拓くパートナーです。
文書 図面 写真 音声 映像を簡単にC-D-R-O-Mにします。

データベースの入出力・活用 デジタル変換
コピーサービス 総合印刷 CAD入出力
文字情報入出力 プリペイドカード



代表取締役会長 早坂 清吉 (昭和29年卒)
本社 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-1-6 TEL03-3242-0191
横浜支店・千葉支店

“アウトソーシングを支援する”

パルスタッフ株式会社

代表取締役 渡邊 道雄
会長

S28年卒 (鹿島台町)

本社 〒160-0002 東京都杉並区高円寺北1-4-10
TEL 03-5343-5821 FAX 03-5343-5822
立川営業所 (042-528-8585) 神奈川営業所 (0462-77-0791) 甲府営業所 (0551-21-2046)
E-mail: m.watanabe@palsbk.co.jp

日曜大工園芸用品卸 貸ビル、貸マンション業

株式会社 佐々木商事 代表取締役
株式会社 アクアベンドジャパン 代表取締役副社長
株式会社 キャッスル丸森 代表取締役専務

佐々木 光一路 (昭和33年卒)

〒144 東京都大田区南蒲田1-1-21 佐々木ビル
-0035 第一京浜国道沿い 京急蒲田駅前
電話 (3739) 2468
FAX (3732) 7700
HOT Line 090 3202 6393

ビジネス・情報の中心として躍進を続ける街 東京 四谷

ホテルニューショーハイ

〒160-0003 新宿区四谷1-7-9 (しんみち通り)
TEL 03-3357-0551

産地より直送の新鮮な魚介類、備長炭を使ったアツアツ炭焼料理
クラス会・同窓会・忘年会・新年会等にご利用下さい



海鮮炭焼処 源や本店

TEL 03-3355-2545
(ホテルニューショーハイ1F)

佐々木英三 (S30年卒)

HUMAN USER COMPANY

HUSER

住まい選びはユーザーへ

「スカイプラット31」オープン!
110㎡マンション展望ギャラリー

東京駅徒歩1分の夢展望台

SKY PLAT 31

東京駅八重洲南口31階に誕生!

OPEN 10:00 CLOSE 22:00

フリードリンクサービス・ネット検索コーナー

株式会社 ヒューザー 代表取締役 小嶋 進 (古高47年卒)

〒100-6231 東京都千代田区丸の内1丁目11番1号

パシフィックセンチュリープレイス丸の内31階

☎03-3284-0123 FAX 03-3284-0120

URL <http://www.huser.co.jp> E-mail: info@huser.co.jp

佐藤 啓三

(S40年卒 中新田)

中小企業診断士・ISO審査員・エネルギー管理士

KGK ISO (品質・環境)・技術・経営 コンサルティング・グループ 株式会社 経営技術機構 所属

〒105 東京都港区虎ノ門5-3-20 仙石山アネックス1階
-0001 TEL 03-5425-2491 FAX 03-5425-2490
自宅 〒241-0004 横浜市旭区中白根2-22-19
携帯 090-1438-9132 E-mail FZN04730@nifty.ne.jp

特定非営利活動法人

日本刀剣保存会

理事長 宮野 貞司

S34年卒

〒142-0053
東京都品川区中延3-13-17
TEL・FAX 03-3782-5326

会の近況について

副会長 春田 紘輔

昨年七月二十八日定例の在京古高同窓会総会が開催されました。出席者は約六十名という今までの実績のなかで最低でありました。どうも、選挙の投票率みたく、社会的傾向とはいえ非常に心の重い話であります。

しかし、そういう事情ではありませんが、私達会のお世話を任せられた者達は、母校と千人を超える在京同窓生の期待に応えなければならぬという固い決意のもとに、一層の努力を続けていくことに変わりはありません。いろいろ反省点もあります。先ず会の開催日が真夏の日曜日ということはどうなのか、或いは、会報以外にないのかなどいろいろあるかと思えます。

次に、今総会において、任期二年の役員改選を行いました。今回は会長と事務局長が変わりました。新会長には昭和二十四年卒新制高校第一回生の三浦澄能氏が、新事務局長には二十七年卒四回生の佐藤清勝氏が就任されました。

新会長 三浦 澄能氏

昭和二十四年新制古高第一回生として卒業し、東京大学経済学部卒業後住友電工に入社し、その後住友電設社長、会長を歴任され、現在相談役です。

新事務局長 佐藤 清勝氏

昭和二十七年新制古高四回生として卒業し、国税畑へ進まれ、東京国税局管内で目黒・麻布税務署長を歴任され、現在は税理士として活躍されております。

なお、役員会といたしましては、新会長のもとに本会の発展のために鋭意努力いたす所存であります。が、会員皆様方のご協力を心からお願い申し上げます。

「追記」

前会長高橋淳夫氏には、二年間にわたる会長在任中、会の再建、特に財政改善に尽力されるなど優れた実績を挙げていただきました。ことを厚く御礼申し上げます。しかし、会長退任後間もなく体調不調を訴え、入院生活を送るなど一時心配されたときもありましたが、最近順調にご快復されているようであります。

古川市内四校合同新年会 講演のご案内

演題「日本語を声に出して読む」

ことをめぐって

副会長 30年卒 曾根 研一

今年で十回目を迎えます四校合同新年会の講演には、佐々木敦氏をお招きすることになりました。同氏は小牛田のご出身で、古高(二十七年卒)から、東北大学文学部哲学科卒。NHKアナウンサーとして「みんなの茶の間」「午後のロケター」「訪問インタビュー」「ニュース」等を担当。大津放送局長を経て、現在はNHK学園(生涯学習局計画管理部統括部長)に勤めておられます。

今、何故、「日本語ブーム」なのでしょう。

99年の「日本語練習帳」が180万部、01年の「声に出して読みたい日本語」が140万部、02年の「常識として知っておきたい日本語」が70万部と、今、「日本語ブーム」なのです。過去に何度も「ブーム」があったものの、ミリオンセラーになったのは初めてです。(朝日新聞記事より)

「日本語が乱れている」からでしょうか。「いや、乱れているのではない。言葉は昔から変わり続けているのだ」でしょうか。佐々木氏から「皆さんとご一緒に楽しく考えていければ」というメッセージをいただいております。

今回、佐々木氏の講演が実現するまでには、同氏と古高で同じ時期を過ごされた菅野俊次・水上武彦両君(在京)、及び永沢汪恭君(在仙)のお手数をわずらわしたこ

会員消息

とを申し添え、感謝申し上げます。

25年卒 遠山 仁二氏

元副会長として会の発展にご尽力いただいた遠山氏が十一月三日付の秋の生存者叙勲のなかで「勳三等瑞宝章」を受賞されました。

氏は、建設省、都市高速道路公園、管理官を最後に民間に転じられ、宮地鉄工社長や現在も東海興業管財人 社長を歴任されております。

特に民間に入られてからは、経営危機の会社を更生させた手腕を高く評価されたことが高位の受賞となったとされております。

会員からのお便り

大15年卒 師 勝夫

大正の初め頃、私たちの田舎には自転車もありませんでした。田尻から歩いて古川中学に通いました。身体が弱かったので病気になる、古川の病院に入院十ヶ月ぐらいい、その間に私は俳句を憶え、「中学界」という雑誌に載りましたのが縁で、今日まで断続して約八十年もなります。

数年前から或る雑誌社「弘道」という俳壇の選者をつとめています。弱体の私が今日まで長生きしているのは、俳句のおかげかとも考えて居り、今でも毎日暇があれば句作です。いわばストレス解消になっているのかもしれない。

もうひとつは、日経連に勤めていましたので今でも仲間たちと「経営労務クラブ」を作って、毎月学芸会館を会場に例会を開いてい

ます。経営体質の強化とか人間関係のためのコミュニケーションとかいろいろ問題と取り組んでいます。在京古川高校懇親会にも出席しました。これからも元氣な限り、懐かしいこの会合に出席したいものと考えています。御笑覧用に一句。

街騒を遠くに置きぬ木下閣

原稿のお願い

- ・ 近況、消息(転出入、栄進、葬祭等)
- ・ 感想、随想、提案、意見、企画
- ・ 同期会
- ・ 紀行文(国内、海外)
- ・ 広告(会の重要な財源)
- ・ 趣味、特技

以上の項目に限らず、歓迎いたしますので遠慮なく記事をお寄せ下さい。できましたら電子メールで原稿をいただきますと最高にありがたいです。

送付先 〒2663-0043

千葉市稲毛区小仲台9-18 1-31406

亀井 明

電話 043-120612350

編集後記

私が編集に携わるようになって二号目ですが、今回は通常の年末発行号と違って一週間早い発送にしたため、スケジュール的には厳しいものがありました。データによる入稿を進めた結果何とかになりました。また関係者が集まった内容確認も一回で済ませることができました。予算の関係もあり現在は八ページですが、増ページによる内容充実を図るためにも、広告出稿を皆様にお願ひしたいと思います。(亀井)

お知らせ

第10回古川市内四校合同新年会

- ・ 日時：平成15年1月19日(日) 11:30~15:00
- ・ 会場：上野精養軒
- ・ 会費：8,000円
- ・ 記念講演：佐々木 敦氏 (元NHKアナウンサー 古高S37年卒)
- ・ 演題：「日本語を声に出して読む」ことをめぐって
- ・ 交通案内：上野駅公園口より徒歩5分



上野公園4番58号 電話 (3821)2181